

研究者紹介

国井 大輔

(くにい だいすけ)

農林水産政策研究所研究員
食料・環境領域

●専門分野

地理情報システム (GIS)、
リモートセンシング、地域計画学

●現在取り組んでいる主な研究テーマ

バイオマスエネルギーの導入に係る影響に関する研究、気候変動が農家経営の
及ぼす影響に関する研究、農村の多面的機能や豊かさ等の評価に関する研究

●略歴

東京都出身。2009年3月東北大学博士(農学)、2009年
～2010年東北大学大学院農学研究科研究員、2011年フ
ランス・ブルゴーニュ大学研究員、2012年4月より現職。



小柴 有理江

(こしば ゆりえ)

農林水産政策研究所研究員
農業・農村領域

●専門分野

地域政策論、産地形成論

●現在取り組んでいる主な研究テーマ

ローカルフードシステムや農山漁村の維持・活性化に関
する研究を行っています。

●略歴

群馬県出身。高崎経済大学大学院地域政策研究科博士後期課
程修了。金沢大学文学部教務補佐員、同大学地域連携推進セン
ター特任助教を経て平成24年4月より現職。博士(地域政策学)。



●これまでの研究はどのようなものですか？

博士課程までは、河川の流域に注目し「山・里・川・海のつながり」や「土地利用と河川水質の関係」をテーマとして研究に取り組みました。その後、岩手県と山形県において、地域のバイオマスを利用したエネルギー自給やコミュニティービジネスの創出に関する研究を行いました。そして、フランスのブルゴーニュ大学では、ブルゴーニュ地域圏の農村部を流れるウルス川流域の土地利用が、1800年から現在にかけてどのように変化したのかについて調査しました。

●現在の研究はどのようなものですか？

持続可能な社会を築いていくためには、農林水産業の発展と安定したエネルギーの確保は欠かせません。そのために、地球温暖化などの気候変動に対して、農業としてどのような対策を行い、それをどう評価すべきかを研究しています。具体的には、ある地域において地球気候変動が農家の所得にどのような影響を及ぼすのか、バイオマスエネルギーを地域内で持続的、循環的に利用するためにはどうしたらよいか、ということに関して研究を行っています。また農業の基盤となる農村の豊かさや価値をどのように評価すべきかについても研究を行っています。

●今後の抱負は何ですか？

「流域」や「山里川海のつながり」、「地域の歴史」を意識しながら、GISやリモートセンシングと経済的解析手法を融合し、現実感の高い研究を行っていきたいと思っています。

●具体的には、どのような研究をしていますか？

1つは6次産業化に関する研究です。6次産業化について、理論・実態分析の両面から研究しています。食と農の距離の拡大が課題となり、それを解消するための様々な取り組みが全国各地で行われています。6次産業化を通じて両者のコミュニケーションが深まり、できた商品の価値を共有できる関係を作ることができるかが問われています。そうしたことを実現するためのビジネスモデルや政策的な課題を検討していきます。

2つ目はそうした取り組みを通じた農山漁村の維持・活性化のあり方に関する研究です。6次産業化等に取り組むことによる高齢者の生きがいづくりや所得向上・雇用効果等について実態分析から検討します。また、これらの取り組みを推進する主体の役割や仕組みづくりについても調査・研究を行っています。過疎・高齢化した地域では6次産業のような新たな取り組みを独自に推進することは容易ではありません。そうした取り組みを支援する中間的な組織(NPOや自治組織等)に着目し、その役割や地域での仕組みづくりについても検討することが重要と考えるためです。

●今後の抱負は？

グローバル化が進展する今日であるからこそ、農山漁村の地域資源や文化の素晴らしさを再認識する機運が高まっているように思います。こうした地域で農林漁業や地域づくりに携わっている現場の方々から学び、議論しながら研究を進めたいと考えています。